

# 2023年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年6月2日

上場会社名 ピープル株式会社

上場取引所 東

コード番号 7865 URL <https://www.people-kk.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役兼代表執行役

(氏名) 桐渕 真人

問合せ先責任者 (役職名) IR担当

(氏名) 飛田 留美子

TEL 03-3862-2768

四半期報告書提出予定日 2022年6月3日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

## 1. 2023年1月期第1四半期の業績(2022年1月21日～2022年4月20日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年1月期第1四半期	1,420	88.4	117	253.8	117	288.9	81	291.8
2022年1月期第1四半期	754	—	33	—	30	—	21	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年1月期第1四半期	18.55	—
2022年1月期第1四半期	4.73	—

(注)1.当社は、2021年1月期第1四半期は連結業績を開示しておりましたが、2022年1月期第1四半期より非連結での業績を開示しております。そのため2022年1月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2.当第1四半期会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、2023年1月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年1月期第1四半期	2,534	2,062	81.4	471.30
2022年1月期	2,785	2,311	83.0	528.40

(参考)自己資本 2023年1月期第1四半期 2,062百万円 2022年1月期 2,311百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年1月期	—	0.00	—	78.00	78.00
2023年1月期	—	—	—	—	—
2023年1月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)2023年1月期の配当につきましては、通期業績見通しと連動して勘案する方針でありますため、中間配当の実施は見送り、期末に一括して実施させていただく予定であります。期末配当額につきましては、年末商戦状況を見極めた上で期末配当予想を発表させていただきます。

## 3. 2023年1月期の業績予想(2022年1月21日～2023年1月20日)

2023年1月期第2四半期累計期間 業績予想(2022年1月21日～2022年7月20日)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,041	123.2	385	1,700.2	385	2,277.9	258	2,300.2	58.90

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注)当社の通期業績は、年末商戦期間(10～12月)の業績に大きく左右されます。本来通期業績予想を掲げるべきではありますが、このような玩具市場の特性に鑑み、直近で見通せる次期四半期の予想を掲げさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年1月期1Q	4,437,500 株	2022年1月期	4,437,500 株
② 期末自己株式数	2023年1月期1Q	63,279 株	2022年1月期	63,279 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年1月期1Q	4,374,221 株	2022年1月期1Q	4,374,221 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
【第1四半期累計期間】	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更等)	6
(セグメント情報等)	6
3. 補足情報	7
カテゴリー別販売の状況	7
①第1四半期累計期間売上高	7
②新発売商品及び主なりニューアル商品	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、当第1四半期会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。詳細は、「2. 四半期財務諸表及び主な注記（3）四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更等)」に記載のとおりであります。なお、前第1四半期累計期間との会計基準が異なるため、以下文中の売上高前年同期間比につきましては、参考として記載しております。

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、原油高に起因した原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、ウクライナ情勢の悪化に伴う供給面での制約による下振れリスクなど、先行き不透明な要素が見られました。

当社においても、原油価格や為替円安の影響が仕入コストに直接跳ね返りました。中国の一部地域でのロックダウンにより、当社の一部のアイテムで納期遅延等が発生しましたが影響は限定的です。

国内販売は、売上高に下降傾向が見られました。要因は、収益性改善策として乳児・知育玩具カテゴリーで一部の商品の値上げを実施したことで、販売数が縮小したものと見ています。

海外販売は、米国向け「Magna-Tiles」の需要に伴い、好調な新商品セット「Animalシリーズ」等を中心に注文が入り、当四半期売上が急伸しました。

これらの結果、売上高は大幅増収の前年同期間比88.4%増となりながらも、売上原価率の高い海外販売に比重が偏ったことと、急激な円安および原材料高に伴う全体的な売上原価増により、売上総利益は前年同期間比21.7%増にとどまりました。

経費面では、当第1四半期においては前年同四半期に発生した新規事業開発等の費用は次四半期にずれ込み、結果既存商品販売に伴う継続的な費用発生が中心となったことから、前年同期間を下回る費用発生となりました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は14億20百万円（ご参考、前年同期間比88.4%増）、営業利益は1億17百万円（前年同期間比253.8%増）、税引後四半期純利益は81百万円（前年同期間比291.8%増）となりました。

## (パーパス制定後の企業活動の進捗)

当社はこの4月に新たな経営方針としてパーパス「子どもの好奇心が、はじける瞬間をつくりたい！」を制定しました。これは当社の強みを最大限に発揮する新商品・新事業の研究開発にリソースを集中し、収益性を根本的に改善していくための指針となります。具体的な課題への落とし込み、社員の行動指針の策定などを同時進行で協議を重ねております。

当第1四半期においては、企業としての認知を高め、外部の協力者を得ることを目標に、企業活動そのものを外部に発信する広報チームを立ち上げ、メディアやSNSを通じた発信を開始いたしました。

(当社発信のnote URL [https://note.com/people\\_pr/](https://note.com/people_pr/))

## (カテゴリー別の概況)

## ・海外販売

前年同期間比では489%と大幅増となりました。米国にて昨年秋に発売したMagnaTiles新製品「Animalシリーズ」や「Builderシリーズ」など新しいテーマの商品が引き続き好調で多くの注文が来ております。しかしながら、パーセンテージが極端に大きくなっている要因は、前年同期間において出港遅延により極端に少ない出荷実績であったためであり、店頭販売の数を直接表しているわけではありません。

また、中国向け販売でも春節明けの在庫補充注文など、店頭セリアウト状況は順調に推移しております。

## ・乳児・知育玩具

当第1四半期では、年明けの集客が思うように伸びない状況が続いております。

新商品として、成長に合わせて遊びをカスタムできる「うちの子のダイスキを手づくり 五感シゲキット」や、寝返り期の細やかな体勢の変化にフィットする新感覚マット「水と空気の4STEP知育マット」を発売いたしました。

また、昨年より好調に推移している「ピタゴラスシリーズ」では、今年で誕生30周年を迎えて4月よりアニバーサリーキャンペーンを開始いたしました。

## ・ドール・メイキングトイ（旧女兒玩具）

「ぼぼちゃんシリーズ」において、少しずつセリアウト状況が回復してまいりました。今後、ロングセラー菓子とのコラボ商品「クッピーラムネぼぼちゃん」、「別売させかえコーデセット」を発売し、ぼぼちゃんの認知拡大を図ってまいります。

「ねじハピシリーズ」は前年同期間に新商品の出荷があったため、同期間比ではパーセンテージを落としております。一方、「おもちゃとジェンダー」というSDGsに関連するテーマ性のある玩具として、メディア取材も増えており、7月頃の新立ち上げに向けて取り組んで参ります。

## ・遊具・乗り物

前年コロナ禍での需要加熱の反動は大きく、カテゴリー別売上で見ると前年同期間対比で大きく落とした実績となりました。ゴールデンウィーク商戦にむけて、主要商品「ケッターサイクル」を、安全性を高めてリニューアル発売いたしました。

## ・その他（育児・家具）

新生児沐浴の定番商品として「ラッコハグ」のセリアウトが順調に推移しました。毎年入れ替わる母親たちに合わせて、引き続きSNSを活用したアプローチを行って参ります。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末から2億51百万円減少の25億34百万円となりました。資産の部では、主に配当金及び法人税等の支払による現金及び預金の減少等で、流動資産が前事業年度末から3億23百万円減少し、20億99百万円となりました。

負債では、流動負債で主に次期四半期決済予定の買掛金の増加の一方、未払法人税等の減少により、負債合計で前事業年度末から2百万円減少し、4億72百万円となりました。

純資産合計は、四半期純利益計上の一方向、配当支払等により、前事業年度末より2億50百万円減少し、20億62百万円となり、結果、自己資本比率は81.4%となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

(第2四半期累計期間 業績予測)

次第2四半期(2022年4月21日～7月20日)においては、米国からはすでに前年同期間を大きく上回る注文が来ており、これは実際の売れ行きを反映したものではなく、6月に発売される新商品の、販売店からの期待が高く年末需要を見据えた在庫確保の動きと見ており、大きな注文が今後も継続するかは不透明です。また、7月までは円安傾向も現状の水準が続くものとして、海外販売売上高は前年同期間比約441%の予想です。

国内販売では、5月度は数年ぶりの緊急事態等の制限がかからないゴールデンウィークだったため、旅行やレジャーなどに消費が偏り、業界全体として下降傾向となりました。当社売上高も前年同期間をわずかに下回る見通ししております。

経費につきましては前年同期間並みの発生見込みであります。

これにより、第2四半期累計期間(2022年1月21日～7月20日)の売上高は40億41百万円(前年同期間比123.2%増)、営業利益は3億85百万円(前年同期間比1,700.2%増)となる見通しです。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年1月20日)	当第1四半期会計期間 (2022年4月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,304,925	1,125,033
受取手形及び売掛金	477,494	352,398
商品	397,436	538,963
原材料	6,073	96
その他	237,374	84,036
貸倒引当金	△1,373	△1,126
流動資産合計	2,421,930	2,099,401
固定資産		
有形固定資産	105,068	175,540
無形固定資産	32,815	30,923
投資その他の資産	225,335	227,933
固定資産合計	363,218	434,396
資産合計	2,785,147	2,533,797
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	100,094	203,091
未払法人税等	154,316	31,373
その他	219,392	237,772
流動負債合計	473,802	472,236
負債合計	473,802	472,236
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,705	162,705
利益剰余金	1,864,130	1,604,064
自己株式	△34,267	△34,267
株主資本合計	2,231,369	1,971,302
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	79,977	90,259
評価・換算差額等合計	79,977	90,259
純資産合計	2,311,346	2,061,561
負債純資産合計	2,785,147	2,533,797

(2) 四半期損益計算書  
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2021年1月21日 至 2021年4月20日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年1月21日 至 2022年4月20日)
売上高	753,645	1,419,952
売上原価	430,204	1,026,250
売上総利益	323,441	393,702
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	34,304	24,498
販売促進費	32,979	26,125
運賃	41,079	39,839
役員報酬	17,454	17,454
給料及び手当	35,278	36,052
退職給付費用	3,954	4,080
支払手数料	26,864	31,141
研究開発費	48,562	46,955
その他	49,902	50,572
販売費及び一般管理費合計	290,376	276,717
営業利益	33,065	116,986
営業外収益		
受取利息	5	46
助成金収入	99	-
その他	15	203
営業外収益合計	119	249
営業外費用		
為替差損	3,072	130
その他	0	-
営業外費用合計	3,072	130
経常利益	30,112	117,104
税引前四半期純利益	30,112	117,104
法人税、住民税及び事業税	133	28,330
法人税等調整額	9,272	7,652
法人税等合計	9,406	35,982
四半期純利益	20,706	81,122

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、移転を約束した財又はサービスに対する支配を顧客が獲得した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は、次のとおりであります。

・顧客に支払われる対価に係る収益認識

販売促進費として販売費及び一般管理費に計上していた、顧客に支払われる対価の一部を、売上高から控除して表示する方法に変更しております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合は、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は965千円減少、販売費及び一般管理費は965千円減少しましたが、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響はありません。また、利益剰余金期首残高に与える影響もありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従い、前第1四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

当社は、玩具及び自転車等乗り物類の企画・販売を事業とする単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。



3. 補足情報

カテゴリ別販売の状況

①第1四半期累計期間売上高の前年同期間対比

(単位 千円)

カテゴリー名	2022年1月期 第1四半期 (自2021年1月21日 至2021年4月20日)	2023年1月期 第1四半期 (自2022年1月21日 至2022年4月20日)	前年同期比(注2) (%)
乳児・知育玩具	309,866	287,602	92.8
ドール・メイキングトイ(注1)	62,233	64,400	103.5
遊具・乗り物	174,476	151,920	87.1
その他(育児・家具)	27,113	36,487	134.6
海外販売	179,958	879,543	488.7
合計	753,645	1,419,952	188.4

(注1) 旧女兒玩具

(注2) 当第1四半期会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、当該会計基準等を適用した後の数値となっておりますが、影響額が軽微であることから前年同期売上高との比較比率を参考値として記載しております。

②新発売商品及び主なりニューアル商品

カテゴリー名	商品名	標準小売価格 (税込)
乳児・知育玩具	ピタゴラスシリーズ「ピタゴラスWORLD ダイナミックダイナソー」	¥9,680
	「水と空気の4STEP知育マット」	¥4,400
	「五感シゲキット」	¥3,300
ドール・ メイキングトイ	ドール「クッピーラムネぼぼちゃん」	¥5,500
	ドール「ぼぼちゃん専用 クッピーラムネコーデセット」	¥1,760
遊具・乗り物	「ケッターサイクルII」(12、14、16、18インチ 計7種)	各オープン価格